

地域住民とNPO法人による 要支援者支援システム及び退院支援



福岡県大牟田市

医療法人 静光園

白川病院

猿渡

進平

医療法人 静光園 白川病院 概要

◆ 診療科

内科・リハビリテーション科・放射線科

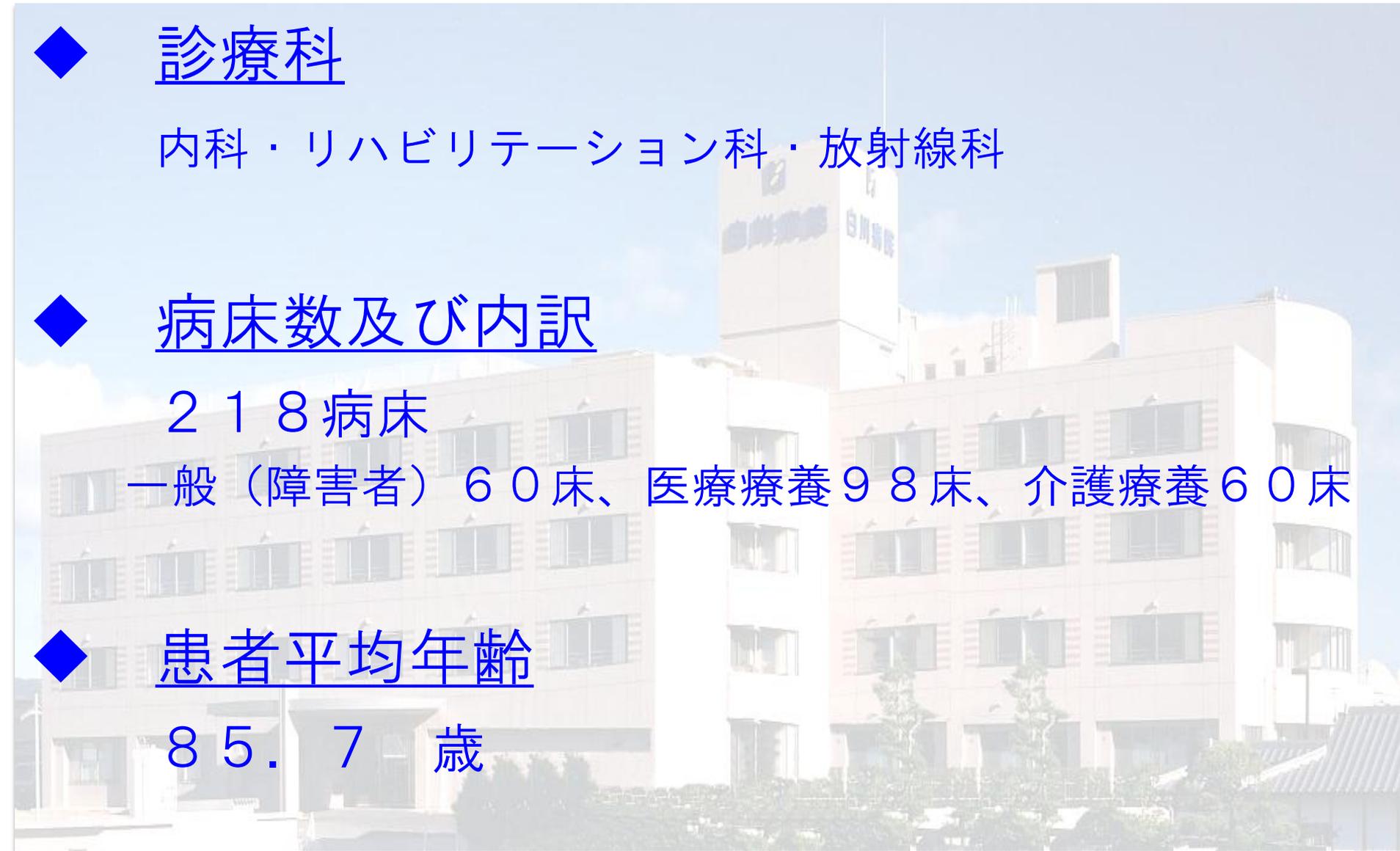
◆ 病床数及び内訳

218病床

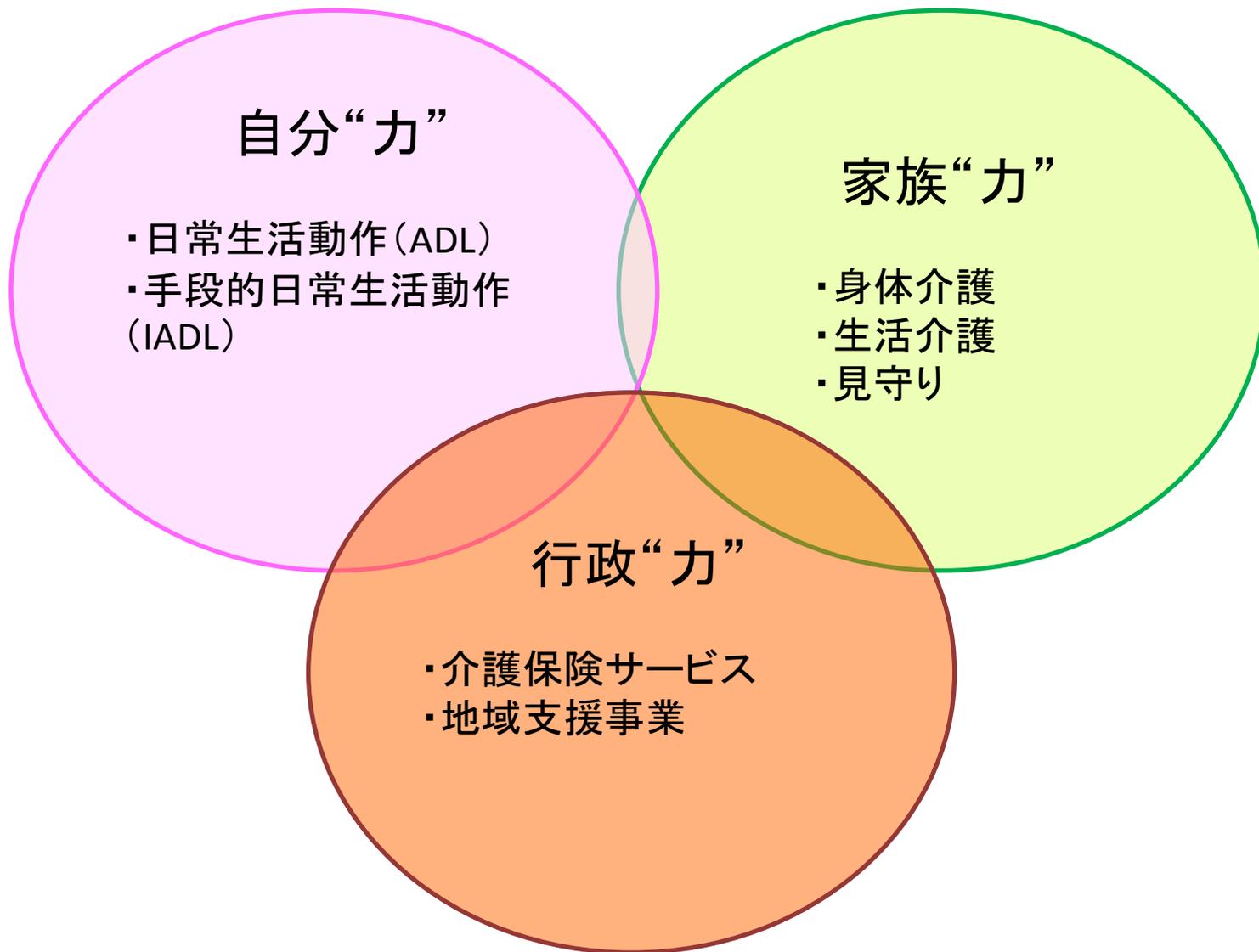
一般（障害者）60床、医療療養98床、介護療養60床

◆ 患者平均年齢

85.7歳



患者が自宅退院するための“力”



ほっと安心（徘徊）ネットワーク

大牟田市 徘徊SOSネットワーク模擬訓練(平成14年～)

- 1. 認知症の人と家族を支え、見守る地域の意識を高め認知症の理解を促進していく**
- 2. 徘徊高齢者を隣近所、地域ぐるみ、多職種協働により可能な限り、声かけ、見守り、保護していく実効性の高いしくみの充実**
- 3. 認知症になっても安心して暮らせるために「徘徊＝ノー」ではなく、「安心して徘徊できる町」を目指していく**

訓練に向けた取り組み

●校区実行委員会の設立

声かけ訓練や情報伝達網の再整備、認知症サポーター養成講座など必要となる取り組みについては、各校区それぞれにおいて検討を進め、訓練当日に先立つ準備として各校区で事前に実施する。

実行委員会メンバー（校区によってメンバーは異なる）

- 民生委員・児童委員協議会
- 校区町内公民館連絡協議会
- 校区社会福祉協議会
- 地域の医療、介護事業所(地域交流施設)
- 地域包括支援センター
- 認知症ライフサポート研究会運営委員
- 大牟田市長寿社会推進課

第1回 徘徊模擬訓練 in しらかわ



事前の認知症学習

【開会式】

実行委員が中心に事務局に集合し開会式(認知症サポーター養成講座・声掛けの方法・道に迷った方を見つけた際の連絡先等)を実施。その後、徘徊役に対し、声をかける。

- 開催日：平成19年9月23日(日)
参加者：9名
徘徊役：1名
訓練結果：2時間歩き1件の声掛け



訓練の実施状況

地域ふれあいフォーラムinしらかわ
～とんとんとんからりと隣～

白川校区
社会福祉協議会

白川校区
公民館連絡協議会

白川校区
民生児童委員連絡協議会

地域の中での支え合いや
ネットワークの必要性について検討

白川校区
しらかわ生き生きクラブ

白川校区
老人クラブ

中央地域包括支援センター

医療法人 静光園
地域交流センターしらかわ

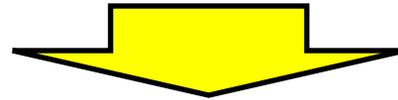
任意団体
白川ふれあいの会

- ① 現実に目を向け“他人事”から“自分事”へ ② 新たな組織が加わり事業が活発化

地域で認知症の人を支えるには日頃の関係が必要

地域住民が知り合う事を目的に

地域での「ふれあいの場所」をつくる。



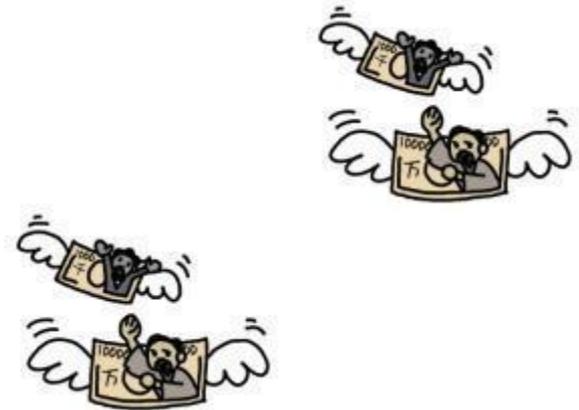
- ・隣り近所の付き合いから情報を広げる。
- ・本人の地域での繋がりを保つ関係づくり。
- ・「認知症」を地域で公言できる関係づくり。



しかし!

サロン等の開設には お金がかかる! 契約は誰がするのか!?

- サロンの開業資金、運転資金
- ボランティア保険への加入
- 継続的な事業開催費



などを確保しなくてはならない。

NPO法人の立ち上げ

3点の問題解消の為に

法人格取得



① 社会的信用

- ・ 契約行為とボランティアの提供

② 自主財源

- ・ 目標に到達するという契機と資金の透明化

③ 継続性、自主性

- ・ 責任感の獲得と入りやすさ

NPO法人 しらかわの会 設立総会 開催

- 開催日:平成21年11月15日
- 出席者:54名



審議内容:

- ① 設立趣旨に関する件
- ② 事業計画等について
- ③ 役員を選任について
- ④ 設立代表者の選任について など

NPO法人 しらかわの会
設立総会会場
平成二十一年十一月十五日 九時受付

NPO 法人設立総会 集合写真



「NPO法人 しらかわの会」の活動計画

基本目的

高齢者、障害者等の世帯を対象に個別訪問を実施し、家事支援及び生活相談に応じ自宅で安心して生活できるように支援する。また安心して住める町づくりを目指す為、環境整備や安全確保を重点に地域の活性化に寄与する。

事業名	具体的内容	実施予定
・日常生活支援事業	・個別訪問による買い物、付き添い、清掃、庭木の手入れ、相談支援等 ・サロン事業	随 時
・環境美化部会	・堂面川河川敷清掃 ・地域内の清掃活動	1回／年 1回／年
・安心、安全部会	・防犯灯及び危険箇所点検 ・地域広報誌発行	2回／年 随 時
・こども部会	・通学路点検 ・学校諸行事の支援 ・こどもの居場所づくり ・障害児の登下校支援	2回／年 随 時
・自治体及び他団体の支援事業	・徘徊模擬訓練 ・白川まつり	1回／年 1回／年



買い物難民の為に地元商店街との共同サロン開催



地域内での“困っている事”と“もったいない事”
の掛け合わせから新たな活動の開発

管理が不十分で住民から苦情が寄せられていた休耕田地



徘徊模擬訓練inしらかわ 実施結果



	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
徘徊役	1名	6名	20名	26名	26名	26名	26名	50名
参加者	9名	87名	240名	165名	167名	162	185名	232名
声かけ	1件	35件	361件	247件	268件	317件	299件	492件

2014年 徘徊模擬訓練inしらかわ

スタッフ 集合写真



医療機関、介護施設として

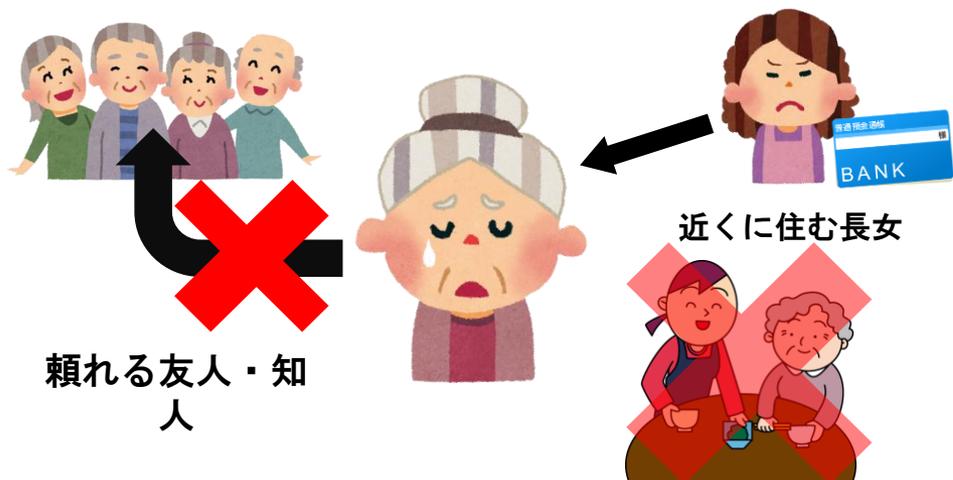
“利用者”と“地域住民”との連携

インフォーマルを中心とした地域支援

退院前の地域住民による清掃



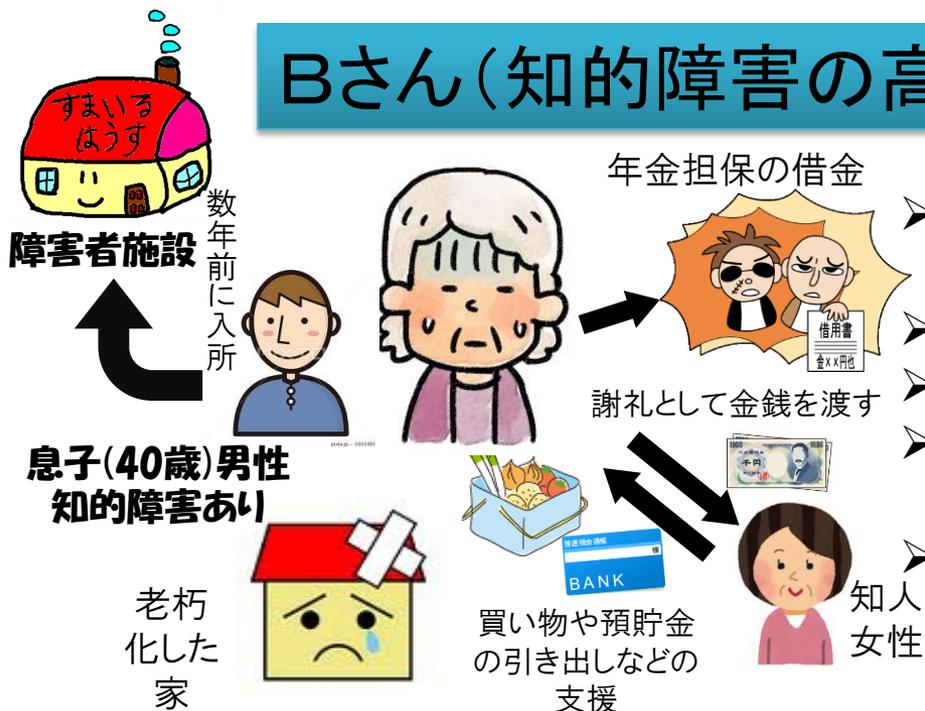
Aさん(認知症のある高齢者)の生活状況



- 80代 要介護1、生活保護受給
- 頼れる友人・知人なし
- 近くに住んでいた長女は世話の放棄・放任をし、心理的・経済的虐待。
- 家賃や医療機関への未納あり

「左大腿骨転子部骨折」で入院。認知症があり、自宅で、徘徊していた。

Bさん(知的障害の高齢者)の生活状況

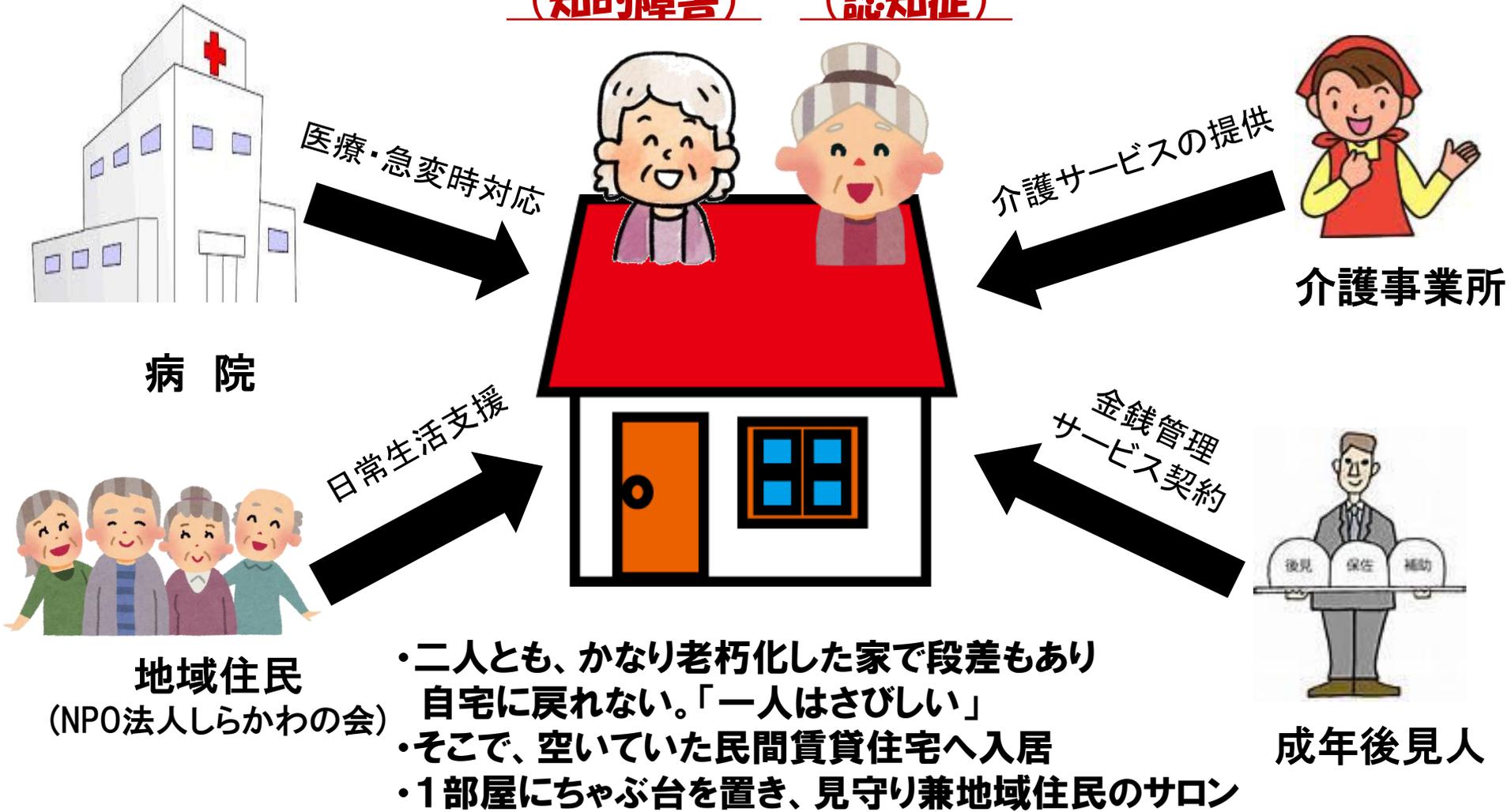


- 80歳代 女性知的障害。障害年金1級、要介護1
- かなり老朽化した家に住む。
- 40代の知的障害の息子は施設に入所。
- 知人女性が買い物や預金の引き出しを支援し、謝礼として金銭を支払っていた。
- 年金担保の借金があった。

食事が摂れておらず低栄養で入院。

入院中の、住み慣れた地域に帰りたいという二人の想いを尊重し、「ルームシェア」を提案し実現に向けた退院支援

Bさん (知的障害) Aさん (認知症)

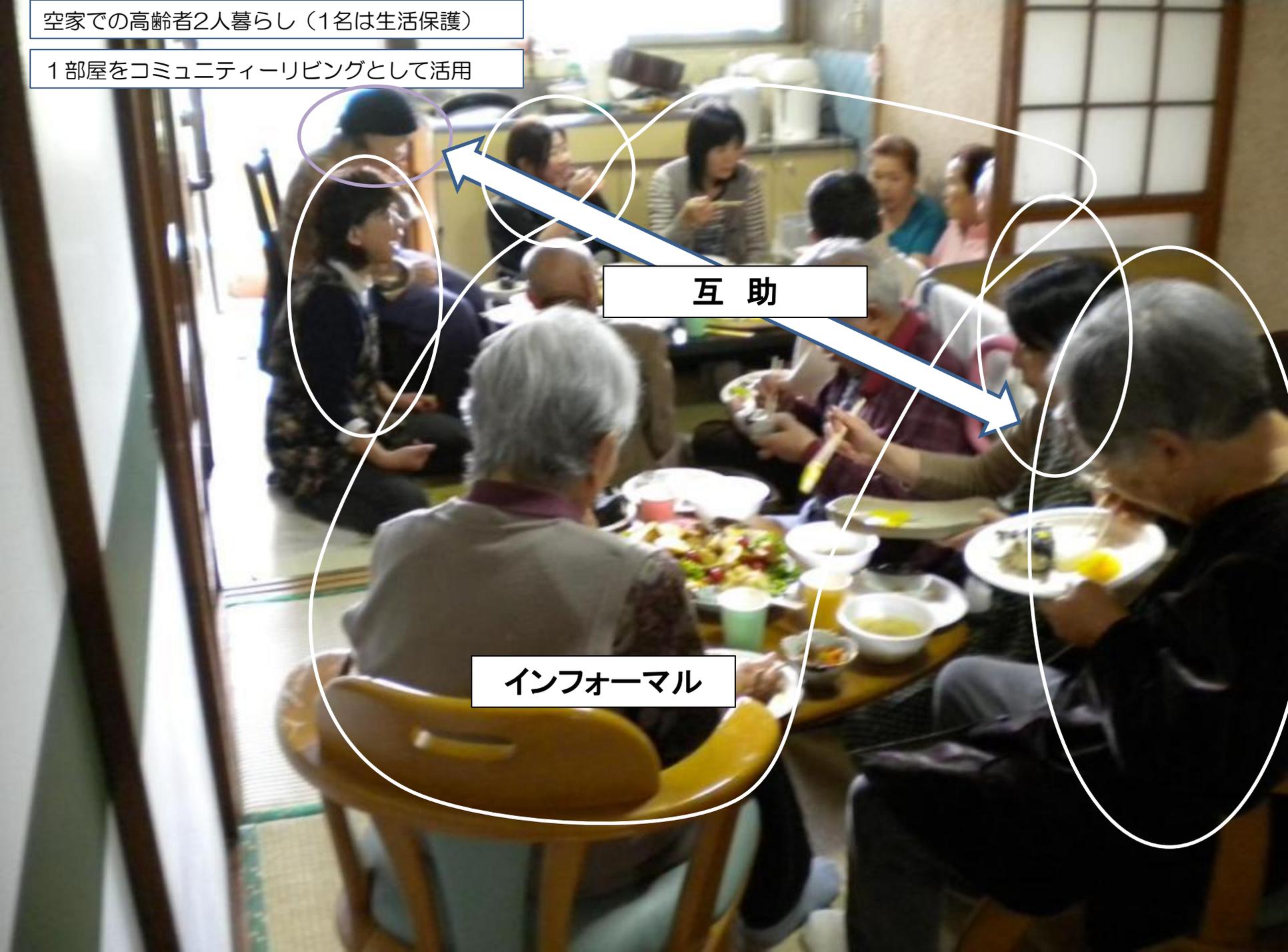


空家での高齢者2人暮らし（1名は生活保護）

1部屋をコミュニティーリビングとして活用

互助

インフォーマル



地域に暮らす認知症高齢者の支援会議





その人“に”何が出来るか？ ⇒ その人“と”何が出来るか？

病院から退院する患者の 退院前訪問指導

*地域の繋がり合いの復元

本人

インフォーマル

別居家族

フォーマル





空き家 交流の場に再生

大牟田・上白川町

寄り合い、趣味活動に利用

大牟田市上白川町の空き家が、地域住民の交流拠点「サロン田崎」としてよみがえった。地元のNPO法人「しらかわの会」が管理し、一人暮らしの高齢者の寄り合いや、編み物など趣味の活動の場として活用していく。



サロンの看板を除幕するNPO関係者ら

この家に暮らしていた女性の「家は地域に役立ててほしい」との遺言を受け、遺族が昨年2月、市や市社会福祉協議会などでつくる「市居住支援協議会」に相談。同協議会が同NPOに仲介し、両者で昨夏から、板の張り替えなどの補修を行ってきた。

サロンは木造2階建て住宅の1階部分を活用。名称の田崎は、地元の古い地名からとった。

24日にあったサロンの開所式には地域住民ら約50人が参加。部屋や庭先でお茶やせんざいを味わいながら、早速おしゃべりに花を咲かせた。

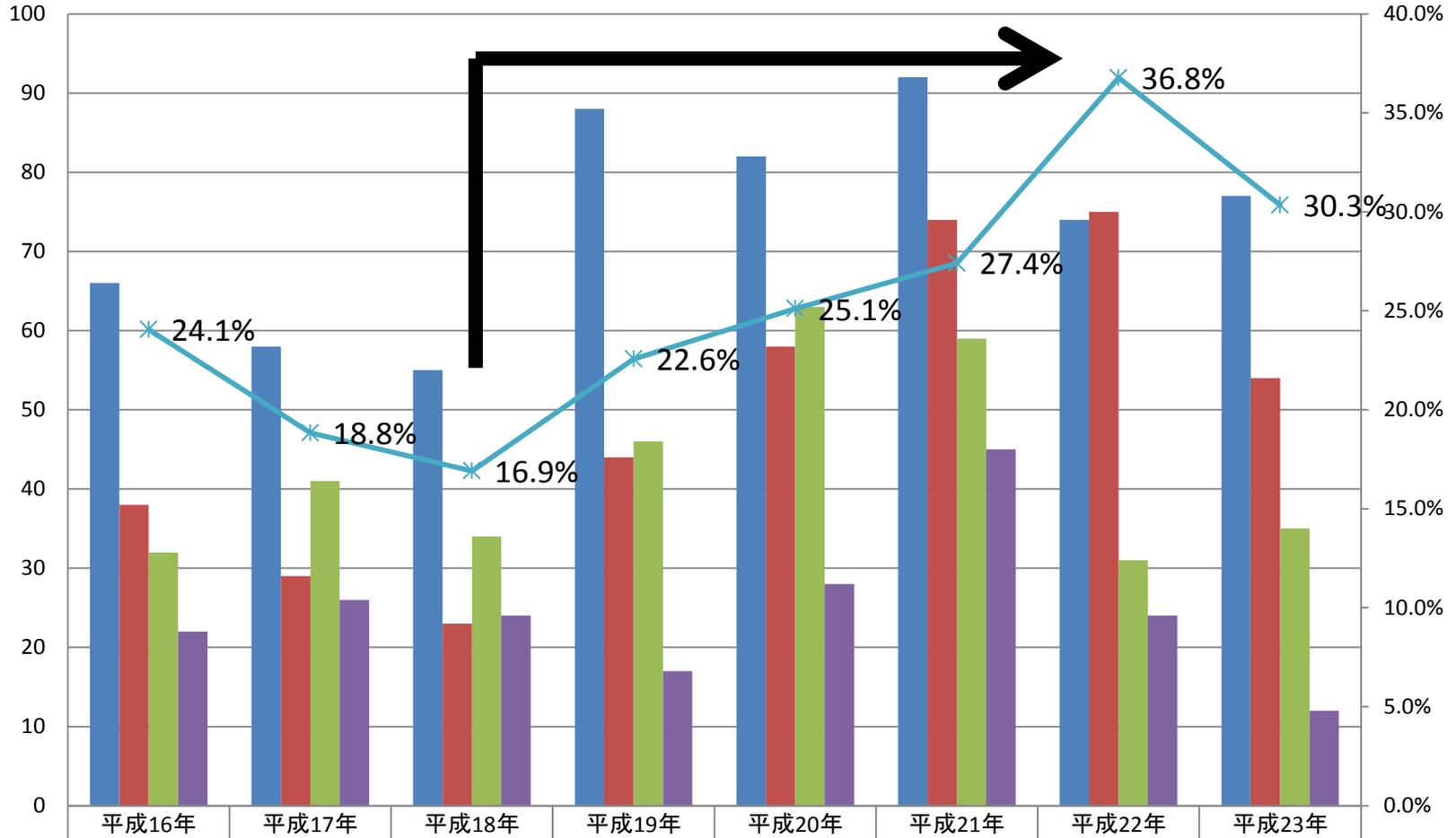
家を提供した女性の長男(67)も式に招かれ、「母を支えてくれた地域の方々への恩返し。さっと喜んでく



れているはず」と目を細めた。女性と仲の良かった近所

の境峰子さん(83)は「お若い頻繁に行き来する間柄だったので、思い出が詰まった懐かしい場所。これから、ここで過ごす時間が長くなりそうです」と話していた。

退院患者動向



死亡	66	58	55	88	82	92	74	77
在宅	38	29	23	44	58	74	75	54
転院	32	41	34	46	63	59	31	35
施設	22	26	24	17	28	45	24	12
入院患者数に対する 自宅退院患者の割合	24.1%	18.8%	16.9%	22.6%	25.1%	27.4%	36.8%	30.3%

繰り返す“真実”の合意形成



キーワードは常に “ 住民はどんな町に住みたいか？ ”